

根本的酪農政策の確立を

惣 津 律 士

この頃の話題として乳価値下げ問題がある。生乳1升当り62円が10月1日より全国一律に2円値を下げる旨の通告が大手5社からあったのは8月末でした。県酪連はこの事のあるを予想して8月初めに乳業会社に現状維持の線を強く主張し、通告に応じられない旨を嚴重に申し出、9月23日には県内生乳生産代表者大会を開いて乳価値下げ阻止、生乳の学校給食の拡大、脱脂粉乳の輸入中止、販売飼料の値上げ防止等当面の問題の解決を決議し、関係方面に強く働らきかけた。

10月12日には来岡中の農林大臣に農業会館で陳情し、又10月21日東京で開催の全国酪農民大会及び脱粉輸入を取止めて生乳による学校給食を推める国民大会に本県代表を送り農林、文部、大蔵当局はもとより国会及び明治、森永、雪印乳業本社に強力な陳情を行った。

岡山県の乳牛頭数は現在3万1,000頭に達し年と共に多頭化の傾向にある。生乳生産量は昨年度が6万8,000余t本年度は7万6,000余tが予想され、生産ののびは112%で昨年度の前年比116%より低位にある。生乳消費量は学校給食を含めて昨年度2万t本年度2万5,000tが見込まれ、飲用向乳量の対前年比は昨年度が101%、本年度が116%で漸時好転はしているが、この数字で判るように本県の飲用乳率は低率にあるのである。

一方我国の学校給食用の輸入脱粉は8万5,000トンが計画されており我国酪農界にとってこれは驚異的な数字である。これが国際間取引上やむを得ないものであるだけに、私共も必死となって国産牛乳の学校給食制度の確立を要請する訳である。これにより生乳の消費率を高くし、値下げ阻止は勿論のこと私共が主張して止まない生産費所得保償乳価の獲得に役立たせたいと思うのである。生乳消費の促進は

国も県も、メーカーも、生産者も等しく努力せねばならない重要課題でありこれが今後の日本酪農基礎を確立するものと確信するのである。

酪農経営の合理化については国、県の指導の下に着々成績が上っておるが、乳業者は乳製品の需要バランスの不均衡を理由に、乳価を押えようとしているのである。そして生産者団体との間に毎年乳価交渉が行われ、国や県が中に入って調停が行われている現状はさなぎだに自由化等でおどかされている酪農民にとっては極めて不安な酪農経営を続けさせられるやり切れない気持ちを与えている。その上人手は不足だ、飼料は高くなるのに乳価は安くなるのでは我慢が出来ない。

国においては乳価のテコ入れとして余剰乳製品の買上げを本年春にやったが、この措置は日がたつにつれて業界の不満をかい、今後の買上げに大きな支障となっている有様である。こういった状況下で生産者も乳業者も等しく国の酪農政策の貧困をうたえているのである。

問題は、国が買上げ措置のみで乳価問題を解決しようとしたり、酪農法の少々の改正で紛争を調整したりするしかない施策の手ぬるさにある。私はこの機会に、政府関係者が意を決して日本酪農に根本的なメスを入れることを考えて貰い、そして抜本的乳価保償制度を確立して戴くことを切望したいと思うのである。